

第 1 回館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和60年3月9日(土曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1 番 神田 守隆
3 番 山中金治郎
5 番 川名 正二
7 番 榎本 春光
9 番 福原 勤
11 番 飯田 義男
13 番 石井 昌治
16 番 松下 正己
19 番 黒川 平治
22 番 林 豊
24 番 流山源次郎
27 番 安西 益男

2 番 田沢 勝信
4 番 日下 君敏
6 番 生稻 陞
8 番 小宮 利夫
10 番 横溝 功
12 番 石井 謀
15 番 渡辺 昭夫
17 番 近藤 好雄
20 番 石井 武敏
23 番 伊賀 多朗
25 番 五十嵐 昇

1 欠席議員 4名

14 番 伊藤幸太郎
26 番 石井 正

21 番 吉田勇治郎
28 番 安澤 徳順

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 川畑喜代志
経済部長 吉岡 政雄
教育委員会委員長 杉村 芳枝

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生部長 鈴木 力
水道課長 石井 敏夫
教育委員会教育長 福原 修

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和60年3月9日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎副議長（渡辺昭夫君） 本日の出席議員数 23 名、これより第 1 回市議会定例会第 3 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎副議長（渡辺昭夫君） 日程第 1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等は昨日と同じであります。

これより順次発言を願います。

8 番議員小宮利夫君。御登壇願います。

（8 番議員小宮利夫君登壇）

◎8 番（小宮利夫君） 私は、今定例会におきまして、すでに通告してあります次の諸点について市長のお考えをお聞かせ願いたく、質問申し上げます。

まず、第 1 点、医療行政についてであります。3 月 1 日から実施されます医療費改定の骨子が報道されました。新しい試みとして個人開業医を中心とする診療所がかかりつけの患者を病院に紹介したり、あるいは逆に病院が退院患者のアフターケアのため入院中の検査データを添えて診療所に紹介した場合は保険から紹介料を支払うことになりました。

このことは、病院は入院、診療所は日常の健康管理を含めた外来という役割分担の明確化と両者の提携関係を密接にすることがねらいであります。患者の紹介とリターンという診療所、病院間の連携プレーがうまく運べば継続的に効率のよい医療ができます。入院の必要がなくなった患者をすぐ在宅ケアに移すことができる理想的な医療システムの確立が図られると思います。

しかしながら、日本の医療の現況を考えますと、料金体系に若干の手を加えるだけではたして理想どおりの方向に誘導できるかどうかはなほ疑問が残ると思います。医師や病院経営のモラルが一部が低下し、悪徳医師の横行がマスコミを賑やかしている現在であるが、館山市の医療体系はプライマリーケアを本当に地で行く診療所が多いが、小さなモラルの低下は否めないようであります。

例えば、手術のみでしか回復の見込みない病状であるにもかかわらず、それを延々と1年余も治療を続けさせ、あたかも回復するがごとき言動を弄して治療していると仄聞しました。これは一例であります、プライマリーケアと知りながら、なおかつ利益の追求か、そのほどは明らかではないが、このような仄聞は事実でないことを私は信じたい。

また、プライマリーケアで発見し、ホームドクターの紹介状を持参して病院に行くときは、概して救急を要する場合が多い。ということは入院患者を送るので病院側では準救急の処置をすべきであります、それを一般外来と同じ順序で「3時間待ちの3分診療」で待たされて病状を悪化させております。病人の愁訴は肉親にとっては耐えがたいもので、紹介状優先の行政指導ができるのかどうかであります。

また、日曜当直医が鴨川へ偏した2月11日がありました。鼻血の止まらない老人患者を鴨川市まで運ぶことが忍びなかったのも、たまたま知人の医師が在宅したのでその病院まで10分程度の道のりだったので救急車のごやっかいになりましたが、これもはなはだ不都合であるので、解決の道を探していただきたい。

館山市の医療システムは、熱心な医師の提唱により早くから医師会病院を核としてプライマリーケアに徹し、さらに集団検診による市民の健康管理を率先垂範し、わが国医療の最先端をいくというか、むしろ先駆的な存在であるといっても過言ではないほどであります。そして、夜間診療まで医師の交替勤務で、市民の健康管理に努めていることに対し深く敬意と感謝の意を表するものであります、この制度が市民の中に深く浸透していないうらみがあるかと思えます。このような医療システムにもかかわらず、むしろ行政側の対応が少し遅れているのではないかと思います。もっと保健技術者を充足させて市民の健康管理を高め、年々増高する保険税に対し歯止めをかけるお考えがあるかどうかお尋ねをします。

次に、第2点は、会議所だよりに掲載されました、うし年生まれの方々の市への要望のことで質問しますが、これは私の直接の質問ではありませんので、再質問はいたしません、できるだけ懇切丁寧に、かつ具体的に御回答できるものは具体的にお願ひし、初夢的な発想もあるので市長の理想像でもよし、初夢的でもよし、館山市の未来像について少し具象的に御

披露をお願いしたいと存じます。

まず、小さな1点、「ハイウェイ、新幹線、ローカル航空網の整備発達で館山市までの時間的距離は首都圏の近くに位置しながら相対的にはむしろ遠のいている感じです。道路、交通網の整備、さらにニューメディア時代に向かって情報網の整備利用対策が望まれます。経済も文化も観光面でも、社会生活の面でもそれが根本だと思いますので……。」

小さな2点、「観光PRが中途半端だと思います。もっと奇抜過ぎるくらいのアイデアがあっていいと思います。例えば、冬でも海水浴ができるとか……。他市と同じではお客さまは来ないと思います。来てみていただかないと館山のよさはわからないのではないのでしょうか。」

小さな3点、「観光をスローガンとして生きる当市も、素通り観光地ではだめです。立派な城もできあがりました。もっとフルにPRする必要があると思います。他県よりの市民センターでの出張販売は疑問に思われます。ほとんど市内の小売業者が取り扱っている商品をバッティングします。産業会館と違うと思います。」

小さな4点、「市の行政に対し詳しくもないので、高望みはできないけれど、市民サイドに立って行政をしてもらいたい。市条例が現代にそぐわなかったら改正するぐらいの気構えはみせてもらいたいものですね。」

小さな5点、「交通網の整備が第一だと思います。一車線でよいからしっかりした歩道を設けてもらいたいものです。観光面では、海をきれいにするとともに、海にちなんだレジャーランドの建設をしてもらいたいものですね。」

小さな6点、「陸の孤島の解消です。道路網の整備はもちろんですが、海、空の交通も確保することはできないのでしょうか。館山湾に大規模なヨットハーバーをつくり、つくば博のように夢の島とヘリコプターで結ぶ、またホーバークラフトの運航もいいと思います。初夢のようなものですが、これからは全安房的発想も大事ですね。」

小さな7点、「川名地区の国道より海岸通りの市道へ通る、車の行きかう直通の広い道路がなくて不便です。通称水産道をまっすぐに海岸通りへ通ずる道ができたら大変便利です。何とかならないものではないのでしょうか。」

以上、小さな7点は、庶民の素朴な声と限りない夢であろうかと思いま

す。お隣の首長は、まほろばの里を目指すのだと施政に夢とロマンを求めています。市長も香り高い文化福祉都市を目指しておりますので、夢の一端などお聞かせ願いたいと存じます。

第3点、館山市史の資料編の編さんについてであります。数年を費やして市内外の古文書や資料等を収集して通史の編さんに入り、昭和46年上梓されました。本来ならば資料編を編さんしてから通史にかかることが市史編さんの常道であります。通史の上梓を急ぐあまり資料編を後回しにしてしまいました。通史上梓以来14年を経過しましたが、いまだ資料編編さんの機運が熟していないようです。立派な博物館もできたことですし、さらに専門職もおりますので、資料編を編さんして有料で頒布する御意思がありますかどうかお尋ねします。

第4点、社会教育活動についてであります。小さな1点、公民館は社会教育の学校的存在であり、社教の実践部隊であります。人間形成に必要な欠くべからざるものは、指導者とその器、すなわち建物が大きく支配するものと考察しております。市の中心には中央公民館が完成し、当初予想した利用人員をはるかに凌駕しております。市内で文部省基準に適合する公民館は北条、館山、西岬の3地区のみで、基準以下でありますほかの公民館を建て増しするか、2地区に1館くらい大きな公民館が必要と考えます。文化の殿堂をひなびた地区にも恩恵を及ぼし、公平な行政の発展を期待するものであります。

小さな2点、地区公民館長は地区ただ1人の公的機関の長であります関係上、地区行事にことごとく招待、あるいは呼び出されて多忙をきわめており、さらに行事につきものの祝金の出費がかさんで、館長報酬を出し尽くしてなお身銭を切っているありさまであります。この状態が続きますと、館長になる人がなくなり、館長人事にも影響しますので、せめて月額1万円くらいの引き上げを要望いたします。

小さな3点、地区公民館運営審議委員制度がありますが、社会教育法第29条に「2以上の公民館を設置する市町村においては、条例の定めるところにより、当該2以上の公民館について1つの公民館運営審議会を置くことができる」とあります。地区審議会は法と多少矛盾しているのではないかと思います。むしろ、審議機関よりも実践の組織を置く必要があるか

と思います。公民館組織の中へ館長、副館長、書記のほかに部長制度を設けて、組織を強化したらなお一層活発な活動ができると思いますが、いかがなものでしょうかお尋ねします。

第5点、平砂浦砂防林と防波堤、テトラポット設置と漁業振興対策についてであります。平砂浦の砂防林は30有余年の長い歳月をかけて植林し、その結果見事な松林となって後背地を守り、その使命は達成されました。現在では神戸、西岬地区の田畑を守り、さらにフラワーラインの敷設、観光施設やゴルフ場ができて、平砂浦は一躍脚光を浴びるようになりました。このことは南部林業事務所や平砂浦砂防組合の御努力のたまものと深甚なる敬意を表するものであります。

平砂浦は、かつて広漠たる砂丘で、西風が吹くと一夜にして大きな砂の山が姿を消したりあらわしたりする砂丘で、鳥取の砂丘に次ぐくらいの景観であったかと思います。この状態のままが観光資源になったか、また松林にしたことがよかったかは後世の史家にゆだねるとして、この松林を守るため松林の先端であります波打ち際にコンクリートの防波堤を築き、さらにその前面にテトラポットを置き、白砂をコンクリートで埋め尽くしました。昔からすばらしい景観をめめて山紫水明、白砂青松という形容詞があります。平砂浦には青松の人工美林はできたが、白砂がなくなりコンクリートの怪物がのたうち回っております。日本海の北陸海岸のように国土が侵食されるならば、これを保全するための防波堤の構築はだれしもが是認するが、隆起している海岸に防波堤を築き、海岸線の美しい景観を破壊する愚かさは断じて許すわけにはまいらないと存じます。

かつての平砂浦は、相浜地区民の生活の生命線でありました。大地びき網が引かれて区民の生活の大半を支えてきたほど魚族の宝庫でありました。1本の引き網に50人ほどの漁師のおかみさんが加わり、合計100人近い引き手と、船の上の漁師が30人前後の大きな共同漁業で、このほかに布良地区の一本釣りの生活を支えてまいりました。このさしもの大地びき網も時代の変遷には勝てず、また自然環境の破壊が加速して閉鎖の運命を強いられたのであります。

防波堤を築いたため、自然の循環と申しますか、1つのサイクルが止まったため、漂砂の行方が微妙な変化を起こし、通称カゴメの根が大部分が

砂に埋もれ、海藻類や小動物の生息を妨げ、資源が枯渇し、さらに漂砂が沖合の根まで影響して、通称ハラキン根という平砂浦唯一の魚礁が砂のため埋没寸前となりました。かつては伊勢エビ、サザエの宝庫でありましたが、今では漁獲が減少し、このまま推移するならば漁獲が皆無となる日もそう遠くはないと思います。

県南部林業事務所では、防波堤を築いた影響が出たならば調査して善処する約束でしたが、いまだ調査の形跡もなく放置されたままであります。目的が達成されれば、後は弊履のごとく打ち捨てても何ら痛痒すら感じないやり方に対し義憤を感じております。平砂浦の魚礁で生活を支える相浜漁民の怒りは心頭に達しております。速やかに状況や海底の調査を実施するよう県当局に働きかけを要望いたします。さらに、できることから市独自の調査を実施して漁業の振興をお願いいたします。

蛇足ではありますが、平砂浦の海岸はかつて2000人以上の海水浴客で賑わい、北条海岸を凌駕するほどの盛況をみせましたが、藤原の処理場が老朽化したため、生に近い糞尿が平砂浦に流れてきました。これを知った海水浴客は潮の引くがごとく、クモの子を散らすように四散してしまいました。富崎、神戸の業者の痛手は大きいものがあります。将来は水のきれいな残された白砂を活用して、海水浴場として開発することを要望して終わります。

以上、質問をしましたが、市長の御答弁を賜って再質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 小宮議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、医療行政についてありますが、小さな第1点のプライマリーケアについての御質問でございますが、プライマリーケアの推進につきましては、診療所及び病院のそれぞれ持つべき機能の充実を図り、外来機能を高め、あわせて在宅医療を推進し、良質な医療の安定的供給を確保することが重要であり、今後病院、診療所間の連携の強化を図り、医療機関間における検査データの共同利用等、医師会の対応について理解を深めてまいりたいと考えております。

なお、国においても、今回の医療費改定に際し、重点項目となっている

ところでございます。

次に、小さな第2点、ホームドクターの紹介状についてでございますが、——ホームドクターと専門医の問題でございますが、救急を要する状態もあると思われますので、一般患者とは別に処置することが適切であり、これらにつきましては医療機関の対応に問題があると思いますので、医師会にその対応について要望いたしたいと思います。

次に、第3点、日曜当直医についての御質問でございますが、現在、国民の祝日及び日曜日の昼間の救急医療体制を確保するため、鋸南、館山、朝夷、長狭の4地区に各1施設設置いたしまして、午前8時から午後5時まで救急、急病患者を受け入れておりまして、地域ごとに対応できるようになっております。運営につきましては、安房郡市広域市町村圏事務組合が安房医師会へ委託をしております。

次に、小さな第4点、夜間診療についてでございますが、夜間急病診療所として毎日午後7時から午後10時まで安房医師会病院で診療業務を行っております。なお、主として入院を必要とする患者につきましては、午後5時から翌朝8時まで、毎夜入院施設のある病院が輪番制で実施をいたしており、1夜当たり鋸南及び館山地区で1施設、朝夷及び長狭地区で1施設、夜間待機施設として対処しております。これらの業務につきましては毎月の広報でお知らせしておりますが、さらに周知を図ってまいりたいと考えております。なお、運営につきましては、安房郡市広域市町村圏事務組合が安房医師会へ委託をいたしております。

小さな第5点、保健技術者の充足についてでございますが、保健事業の中心的な役割を持つ保健婦につきましては、かねてから増員に努めておりまして、現在8名確保いたし、保健センターを拠点として各種保健事業を推進しております。今後もマンパワーの確保については配慮いたしたいと考えております。

次に、大きな第2点、会議所だよりのうし年生まれの方々の質問についてでございますが、本年1月に発行されました会議所だよりで、うし年生まれの方々のことしの抱負、あるいは市に望むことなどの簡単な設問が出されておりました、私も拝見いたしましたが、何分にも詳しいところまで理解することが難しい面もございますので、総対的にお答えすることで

御了承いただきたいと思います。

私は、今日まで香り高い文化福祉都市の実現を理想に努力をいたしてまいりましたが、今後もこの理想像実現を目標として新しい時代にふさわしいまちづくりを進めてまいりたいと考えております。特に、お話にもございました道路、交通網の整備、河川、海域の浄化対策、観光施策など、いろいろ厳しい問題もありますが、御意見、御要望等を十分参考としながら進めてまいる所存でございます。

以上、御質問のような初夢的な話ではなく、極めて現実的な答弁となりましたが、御理解を賜りたいと存じます。

次に、大きな第3点、館山市史資料編の編さんについて、それから第4点、社会教育について、いずれも教育長から御答弁を申し上げます。

第5点、平砂浦砂防林の防波堤、テトラポットの設置と漁業振興対策についての御質問でございますが、御指摘のとおり平砂浦は30年余の歳月をかけ現在の砂防林ができましたが、海岸線が浸食され、砂防林を守るため、県が防災災害復旧の砂防堤工事等を行いました。現在も毎年飛砂防止の植林が行われております。これらの砂防堤工事等のため、漁場で影響が出ているとして地元漁協から県南部林業事務所に海底調査を依頼してあるとのことですが、地元漁協から要望があればしかるべく対処してまいりたいと考えております。

なお、平砂浦の漁業振興対策につきましては、関係漁協と協議の上、人工魚礁等を考慮するとともに、マダイ、アワビ等の種苗放流事業を行い、漁獲の向上を図りたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

(教育長福原 修君登壇)

○教育長(福原 修君) お答えいたします。

大きな3、館山市史の資料編の編さんはどうなっているかという御質問でございますが、確かに資料編の必要性は痛感をいたしております。しかしながら、すでに市史編さん委員会も解散いたしておりますので、その辺のところを含めまして今後の課題といたしたいと、このように考えております。

なお、博物館ができて、専門職の方もいらっしゃるじゃないかというよ

うな御質問でございますけれども、博物館は一昨年開館したばかりでございまして、現在は基礎固めに努力いたしておる段階でございますので、もう少し時間的な余裕をいただきたい、こう思っておるわけでございます。

次に、大きな4でございますが、社会教育について、小さな1、地区の公民館の増築についてという件でございます。第1点の地区公民館の増築につきましましては、昭和48年度から実施し、昨年の西岬西地区公民館の建設をもって一応公民館の設立は終了いたしました。お尋ねの文部省の基準330㎡以下の施設ではないかというような御指摘でございますけれども、今後財政面を考慮しながら、またあるいは実際の利用度等を勘案しながら検討させていただきたい、こう思っております。

第2点の、非常勤の館長の報酬について、非常に身銭を切って館の運営に当たっていらっしゃるというようなお話でございますけれども、館長の報酬につきましましては、ほんのわずかではございますけれども、昭和60年度の予算に若干のベースアップをいたしまして、計上いたしております。

第3点の、地区公民館の運営審議会委員についてでございますけれども、各地区の公民館にそれぞれ運営審議会を置くよりは2館に1つというような形で置いたらどうかというような、これは矛盾をしているのではないかというようなお話でございましたが、社会教育法、あるいは館山市の公民館条例第16条等によりまして、設置をすることはできていることになっておりますので、矛盾はいたしてないと、このように考えております。

また、さらにこのような運営審議会は、実際の活動はあまりしないので、部長制をとったらよいではないか、こういうような御指摘でございますけれども、もし運営審議会の活動がそのようであればさらに検討を加えて今後の対策を考えたい、このように考えております。

以上をもって答弁いたします。

◎8番（小宮利夫君） 医療行政の小さな1点でありますけれども、私は市長さんの方からプライマリーケアの講義を聞きに来たわけではありませんが、私の言っていることは医学の範疇に属することなので、御答弁しにくいと思いますので、この質問はこれで終わります。

次の、小さな2点は、了承いたしました。善処方よろしく願います。

小さな3点、各地区に1施設あるならば、消防署の救急の対応が間違っていたのではないかと、このように考えられます。人命にかかわることでもありますので、よろしく御指導のほどをお願いいたしたいと思います。

4点は、了承いたしました。

5点は、医療技術の充足については、市長はかねてから大変御苦心なさっていると伺っております。さらに歯科衛生士や栄養士、それからリハビリの技術者等を充足させまして市民の健康管理や増進に役立て、また正しい医療の受け方などの指導を強化して、医療費の増高に歯止めをかけていただきたい、このように要望いたします。

次の問題は、私の質問とちょっと距離が遠いかと思われそうですが、ちまたでは医師が領収書を気軽に発行してほしいという要望がありますが、この点について行政の指導ができますかどうか。その点をお伺いいたします。

○民生部長（鈴木 力君） 医療機関の窓口で医療費を支払った場合、領収書を交付するように行政指導できないかというような御質問でございますが、このことにつきましては、昭和56年5月29日付で厚生省保険局長から各都道府県知事あてに通知が出ておりまして、その内容は領収書の発行の徹底を図るため行政指導を強化する、それからなお、医療費の明細書発行実施可能の医療機関については、実施するよう行政指導を行うこと、こういうようなことで厚生省の方から行政指導というものがなされておるわけでございます。

また、現に各病院、診療所の状況をみますと、最近におきましては、入院におきましてはほとんど領収書の発行がなされておると聞いておりますし、また外来につきましても患者の要求に対しましてそれぞれそれに応じて領収書を発行しているというふうに聞いておるわけでございます。

特に、最近レジを置いている病院、診療所等でありましては、ほとんど発行しているというふうに聞いております。

また、これらにつきましては、地元医師会との協議をいたしたいと考えております。

○8番（小宮利夫君） 了解いたしました。

大きな第2点でございますけれども、いたって現実的な御答弁をいただきありがとうございます。これからも市民の声なき声を声として市政に

反映くださるよう要望いたします。

第3点、館山市史の資料編でございますけれども、私は歴史の発展の必然は先人の残したもののの中にあるかと思います。当時苦心をして集め、現代文にした資料があると思いますので、博物館の片手間な仕事では困難があらうかと存じますが、長い歳月と労力を費やした古文書を埋もれさすことの愚かさを感じておりますので、今後の課題としてぜひ取り上げるよう要望いたします。

次は、社会教育の第1点でございますが、今後財政面と利用状況等を勘案して検討することで、おおむね了承いたしました。が、ひなびた地区にも文化の光を与えてくださるよう要望いたします。

公民館運営審議会の委員でございますが、この2点目と3点目は、行政側のお考えと私の考えていることが相違してかみ合わないような気がいたします、私のような意見もあるということを認識していただいて、終わります。

次に、大きな第5点であります。平砂浦の生体系の破壊は後背地を守ったメリットは大きいものでありますが、海岸の破壊が沖の魚礁を埋め、漁獲減少をもたらしたデメリットもまた大きいものがあるかと思ひます。御当局の御答弁が前向きでありますので、相浜の漁協の要望を携えてお願いに上がりますので、どうか善処方をよろしく願いして、私の質問を終わります。

◎副議長（渡辺昭夫君） 以上で8番議員君の質問を終わります。

次、1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

◎1番（神田守隆君） すでに通告をいたしました5点について、市長の所信をお尋ねいたします。

まず、第1点は、水道料金の値上げの問題についてであります。私は、一般家庭向けなどの料金の値上げはすべきではない、こうした立場から市長のお考えをお尋ねしたいと思うわけであります。

第1点は、新年度では、例えば市営水道で見ますと、収益勘定に県補助金、市補助金がそれぞれゼロとなっておるわけであります。これは県の補助基準が給水原価160円を超えた分からは170円を超えた分に改悪さ

れることに対応したものであります。このために本年度に比べ5200万円余の県補助金が減るわけで、同時にこの県の基準を根拠に支出されている市の補助金もカットされ、その結果、新年度は対前年比で1億円を超える補助金がなくなることになるわけであります。今回の料金の値上げはこの穴を埋めるためともいえるわけで、今回の値上げの原因は県の補助要綱の改悪にあると考えます。市長はこの県補助金の削減についてどのように考えておりますか。

現在、知事選挙の中で、知事がどうなるかわかりません。しかし、いずれにいたしましても今後とも県補助金の削減が危惧されるわけでありますが、県に働きかけていく必要はあると考えませんか。市長の所信をお聞かせください。

次に、市営水道と三芳水道の同一料金制についてお尋ねいたします。

市営水道、三芳水道、それぞれの歴史はありますが、同一の料金制度ができ、市民は北条地区であろうと那古地区であろうと同じ料金になっておりました。これが今回違った料金になろうとしているわけで、同一サービス同一料金という当然の原則が崩れることになるわけであります。市営水道と三芳水道の将来的な問題も含め、同一料金は大切なことではないかと考えるわけでありますが、この点についての市長の所信をお聞かせください。

次に、第3点、一般家庭向けの料金については値上げをするなどという問題など、水道料金の体系についての考え方であります。水道料金の体系については館山市の給水事情から次の3つの視点が特に必要だと考えます。

第1点は、言うまでもなく水道会計の採算性の問題であります。県の補助金や市の補助金のあり方をどう考えるかなどの重要な論点も含めまして、採算性の点であります。

第2は、水は人間としての生活を保障するものであり、人間らしい生活を送るのに必要な最低限の量の水はできるだけ安く供給するという住民福祉の視点であります。月1㍻から8㍻までの料金を特に安くしているのはこうした立場に立ってのことと考えます。

第3は、特に水需給の逼迫している事情から、節水を促すものでなければならぬということであります。

以上、3点の政策上の見地に立って水道料金体系を考えるべきではないでしょうか。

こうした立場から、市営水道の料金体系を県営水道と比較検討すると、県営水道は1㍓から10㍓まではトン当たり45円に対し、市営水道の新料金は1㍓から8㍓まで60円、一方501㍓以上では県営水道はトン当たり350円、市営水道の新料金は260円であります。市営水道は県営水道に比べ一般家庭には高く、大口消費者には安くなっているのがあります。このことは基本料金についても同じ傾向が示されております。

具体的に、例えば月16㍓使う一般家庭を例に計算をしてみますと、県営水道では1490円に対し市営水道の新料金では1880円と市営水道の方が26%も高くなります。ところが、月700㍓も使う75㍓管の大口消費者の場合、県営水道では24万150円、市営水道では16万4720円と逆に市営水道が32%も安くなるのであります。

501㍓以上の料金を県営水道並みにすると、新たに3800万円もの財源を生み出します。これだけの財源があれば月16㍓以下使用の一般家庭については、県営水道並みに料金を引き下げてもなお1500万円ものお釣りがくる勘定になります。501㍓以上の大口消費者には強力に節水を促す見地で県営水道に近い料金をとれば一般家庭用の料金は据え置き乃至は値下げできると思うわけでありますが、この点についての市長の所信をお尋ねするものであります。

次に、大きな第2点、市営住宅の障害者減免制度についてお尋ねいたします。

県では、新年度から県営住宅家賃の障害者等の福祉減免制度が実施されます。入居者の世帯に身体障害者や精神薄弱者や寝たきり老人がいる場合に、その家賃を50%あるいは20%減免しようとするものであります。市営住宅の家賃は早く建てられたものは安くなっておるのでありますが、例えば、昭和54年に建てられた那古住宅などでは家賃は3万2700円、これに共益費などを加え、かなりの負担になっておるわけでありまして。市の要綱による家賃の免除、あるいは減額の基準には特にこうした障害者等に対する配慮はうたわれておりません。県が実施しようとする福祉減免制度を踏まえ、市においても館山市に即した福祉減免制度を検討すべきでは

ないかと思うのでありますが、いかがお考えでしょうか。

大きな第3点、環境生活課の設置と海、河川の汚染防止対策についてお尋ねをいたします。

市民の大きな関心の的となっている問題は、環境汚染の問題であります。市長の所信表明の中で新年度は環境生活課を設置すること、環境対策に本腰を入れて取り組もうとする姿勢と受け止め評価するものであります。そこで、この環境生活課設置の意義はどこにあるのか明らかにしていただきたいと思うのであります。

12月議会で、私は、汚染防止対策には公共下水道でという発想ではなく、各家庭ごとに設置をする戸別下水道の研究こそ重要ではないかと指摘をし、その研究を提案いたしました。その後市では視察などを行っているようですので、戸別下水道の可能性について現在どのように考えているのかお聞かせを願いたいと思います。

次に、環境汚染防止対策に関連をいたしまして、いわゆる中水道といわれる、雑用水道ともいわれますが、その研究についてお尋ねをいたします。

3月4日付の千葉日報紙によりますと、環境浄化対策として生活雑排水や業務排水を浄化し、この浄化された水をトイレ用水や散水、空調などに再利用する施設のことが報道されております。この設備によって環境浄化はもちろんのこと、同時に水道水の節水は66%も図られたとしております。このプラントは県が積極的に普及を呼びかけているもので、すでに県内に公共施設、民間あわせまして13施設あり、病院や学校、デパートなどでも導入をしております。市内の水の大口利用者は自衛隊、ゴルフ場、病院、デパート、給食センター、学校などの説明が12月議会でありましたが、こうした大口利用者の利用などについて節水の効果も狙い、環境浄化とあわせぜひとも研究し、導入を促してはどうかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

次に、大きな第4点、エヌ・エム・ビー・セミコンダクター社との公害防止協定についてお尋ねをいたします。

市は、エヌ・エム・ビー・セミコンダクター社の進出にあたっては環境公害対策については公害防止協定を結び万全を期すとしていましたが、この公害防止協定はすでに結ばれたと思いますが、いかがでありますか。

その際、地下水の枯渇の問題、汚染の問題など住民が大変に心配しているところでもあります。協定の中では住民の立入調査など、その権利はどのようにうたわれているのでありますか、お聞かせを願いたいと思うわけがあります。

最後に、第5点、市の平和の施策についてお尋ねをいたします。

まず、第1点は、平和都市宣言の問題であります。

ここに1つの宣言を紹介いたします。「憲法擁護、非核都市の宣言。まちには子供の笑顔がある。広場には若者のうたがある。ここには私たちのくらしがある。海をこえたかなたにも同じ人間のくらしがある。今、地球を覆う核兵器はあらゆる命の営みを、この幸せを奪い去る。私たちの憲法はくらしを守り、自由を守り、恒久の平和を誓う。私たちは、この憲法を大切にし、世界中の人々と手をつなぎ、核を持つすべての国に核兵器を捨てよと訴える。この区民の声を憲法擁護、非核都市中野区の宣言とする。昭和57年8月15日。中野区。」これは中野区の平和の宣言であります。

昨年12月、わが党は核超大国ソ連の共産党と共同声明を発表いたしました。核兵器の廃絶は人類にとって死活的に重要な緊急課題であると、この共同声明の中でうたいました。また、もう一方の核超大国アメリカのレーガン大統領は、わが国の国会で核兵器の廃絶は私の夢であると演説をいたしました。

この、3月から行われる米ソ軍縮交渉では、核兵器の廃絶をこの交渉の目的とすることがうたわれています。2つの核超大国が核廃絶をいわば世界に公約したといえます。しかし、この交渉が真に核廃絶に向かうか否かは、世界の国際世論の大きな高揚に依拠していると考えerわけであります。

世界の核兵器5万発のうち、わずか1%が使われただけで、地球を核の冬が覆い、人類は絶滅するといわれております。今こそ核廃絶の声を大きくするときはないだろうと考えるわけであります。

すでに、県内だけでも9市1町が、あるいは全国的には5県、380市町村が、日本の人口の30%に及ぶ地域で非核都市宣言を行っているのです。私は、市長のこの平和の問題に対する熱意をお聞かせ願いたいと思うのであります。館山市が非核、平和都市宣言をすることについて、どのようにお考えでありますか、お聞かせをください。

次に、教育長にお尋ねをいたします。

ことは被爆40年、敗戦40年の節目の年であります。わが国は、被爆と敗戦という大きな犠牲を体験し、二度と戦争は繰り返すまいとの決意のもとに新しい出発をいたしました。しかし、40年という経過の中で国民の戦争体験が忘れられ、風化していく心配があります。私自身戦後生まれですし、すでに人口の70％は戦争の体験をもっておりません。市民にとって戦争とは何であったのかしっかりとその体験を記録していくことは平和の大切さをつかみ直していくことでもあらうかと思えます。市民の戦争体験文集を作成し、平和教育の教材などに活用してはどうかと思うのであります。戦後40年、被爆40年という節目の年に当たって、こうした必要性についてどのようにお考えでありますか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

以上、5点にわたって御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、水道料金の値上げについて、小さな第1点は、県補助金の削減についてどう思うかという御質問でございますが、昨日、田沢議員の御質問にお答えいたしましたとおり、県補助金の削減については基準原価の引き上げによるものでございまして、やむを得ないものと考えております。

小さな第2点、同一料金制についてでございますが、これも昨日田沢議員の御質問にお答えいたしましたとおり、事業規模、経営内容がそれぞれ異なりますので、やむを得ないものだと考えております。

小さな第3点、一般家庭の料金を据え置くべきだという御質問でございますが、水道加入者のうち一般家庭の占める割合は非常に高く、一般家庭の料金を据え置くことは、過去の改定経緯や、また大口需要者に対し急激な負担の増を招くことにもなり、負担の公平という見地からも避けるべきであると考えております。

大きな第2点、市営住宅の障害者減免制度についてでございますが、障害者減免制度について県が本年4月1日から実施を予定しているので、館

山市も実施できないかという御質問でございますが、県に問い合わせましたところ、実施細目がまだ決定していないということでございますので、決定次第県から資料等を取り寄せまして十分検討いたしたいと考えております。

大きな第3点、環境生活課の設置と海、河川の汚染防止対策についての御質問でございますが、小さな第1点、環境生活課のテーマということでございますが、御承知のとおり現在当市の環境面で最も大きな問題は、河川、海域の汚濁をいかに防止するかということでございますが、それには汚濁源となっております生活系排水の浄化を図らなければなりません。環境生活課は廃棄物処理施設の建設関係を除き従来衛生課で担当しておりました業務は引き継ぐわけでございますが、最大の課題は生活雑排水の浄化計画の早期策定とし尿浄化槽の適正な維持管理の徹底を図ることであると考えております。

次に、第2点、戸別下水道の可能性についてですが、戸別下水道は前久留米大学医学部非常勤講師石井勲医学博士を初めとする久留米大研究グループが開発した家庭用下水処理装置、すなわち一般家庭用の合併浄化槽のことでございますが、去る2月5、6の2日間にわたり衛生課職員が石井先生宅に設置してあります戸別下水道1号機を視察調査してまいりましたが、その処理水質はBOD1ppm以下で、予想以上によく浄化処理されており、またその処理水は中水道としてトイレの洗浄水や庭木への散水に再利用されておりました。

生活雑排水の浄化対策としては、極めて有効な方法の1つであろうと思われまますので、まだ浄化槽としての形式認定がなされていないなどいろいろな問題もありますが、テストプラントを設置し、さらに調査検討してみたいと考えております。

次に、中水道の研究についてでございますが、中水道は生活排水や業務排水を浄化処理した後にトイレの洗浄水や空調、散水等に再利用するシステムということで、水需要が増加する中で貴重な水資源を再利用することは上水道の節水になり、あわせて河川等への汚濁負荷量の減量にもつながりますので、非常に関心のあるところでございますが、実用化にはまだ時間がかかるのではないかと考えております。しかし、家庭雑排水の処理対

策を調査検討する中で、その処理水を中水道として再利用できないかということは、あわせて研究する必要があるものと考えております。

大きな第4点、エヌ・エム・ビー・セミコンダクター社との公害防止協定について、小さな第1点は、住民の立入調査など住民の権利はどうかという御質問でございますが、株式会社エヌ・エム・ビー・セミコンダクターとの公害防止協定については、本文関係を去る1月24日に締結いたしておりますが、御質問の事項については協定の報告及び調査の項目の中で、必要に応じ地元住民代表等を同行の上、工場の立入調査を行うことができる旨明文化してございます。

5の市の平和施策についての小さな第1点、平和都市宣言についての御質問でございますが、申し上げるまでもなく世界の平和と安全は国民だれもが等しく願っているところでございます。わが国におきましても非核三原則による恒久的な平和を国の基本的な姿勢としており、それを遵守することは当然のこととございまして、御趣旨は十分理解できるところでございますが、当面、宣言をするということにつきましては考えておりません。

次に、第2点につきましては、教育長より答弁申し上げます。

(教育長福原 修君登壇)

◎教育長(福原 修君) 大きな5の2番でございます。

市民の戦争体験文集の作成について、こういうようなことでございますが、12月の定例市会においても申し上げましたとおり、現代の教育の根本的な理念は平和と暴力の否定であり、そして、また憲法と教育基本法を中心とした精神に基づいて教育が行われているわけとございまして、敗戦後40年たった今日このような平和を愛好する思想が風化してきたのではないかというような御指摘がありましたけれども、決してそういうことはございまして、日常の教育の場におきまして平和尊重の理論は教育まで貫かれていますことと私は考えております。

なお、市民による戦争体験文集ができたならば、これを教具、教材として参考にするかというような御指摘でございましたんですが、教具、教材につきましてはそれを採用する、採用しないかは校長の権限でございまして、私の方でこれを採用しろとか、採用してはいけないというようなことは言えない問題でございます。でありますから、そのようなものがあつた

ならば、おそらく校長はその内容を十分検討いたしまして、それは現代の教育にプラスになると判断されたなら採用するだろうし、もしプラスにならないと判断したならば採用しないかもしれませんが、あくまでもそれは教育の現場の問題であると私は考えております。

以上です。

◎1番（神田守隆君） 水道料金の問題であります、やむを得ないということで大変残念なんです——市長さんはやむを得ないという理解の仕方なんですけれども、今度の県の補助金の支給内容が160円から170円に改定されるに当たっては、実際に補助金が減るわけですから大変困るとかということで県に働きかけたとか、そういうことはなかったのかどうか。そして、また今後さらにこうしたものがどんどん進んでいくことについて、今後そういうことで働きかけをしていくということについてのお考えはないのかどうか。

これは、きのうのお話だと、27事業体のうち20ほどの事業体がこうした補助金をもらっているというようなことです。ほかの自治体とも連携をとりながら対応する必要があるんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

◎市長（半澤良一君） 昨日の田沢議員の御質問にもお答えしたんですが、この補助金というのは、きのうも田沢議員の質問にもありましたけれども、国民健康保険の補助金の削減というのとはちょっと性質が違うわけでございます。国民健康保険、あるいは生活保護の補助というのは、本来国がやるべき仕事、それを市町村がかわってやっているというのが実態でございますので、当然国が支出すべきものでありますので、そういう意味で補助金カットは大変地方自治体としては不満足でございます。

この県水の補助——高料金対策というのは、基本的にあくまでも県の単独の政策的な補助金であるわけございまして、県の考え方によって大きく左右される、しかもこれはきのうも御説明申し上げましたように、われわれが当時の水道状況から考えて、何とか県の方で補助をお願いしたいということでお願いをいたしまして、市民の負担軽減を図り、水道企業会計の財政の建て直しを図るためにお願いをして県の政策的配慮からこの制度ができたものでございます。これはやっぱりあくまでも県の側の考え方に

よるところが大きいわけでございます。われわれもまた同時に、その補助金をいただくときに企業経営の努力をする、そして企業経営の努力という中には料金値上げということも含まれているわけです。

そうした経過もございますので、今日まで続けられてきたということだけでも大変水道企業会計のためにプラスになってきたことでございます。しかも、そのときの基準原価というのはあくまでも県水の供給原価を基準とするということでございましたので、県水の原価が上がって、基準原価が改まるためやむを得ないものだというふうに考えるわけでありまして。そういう意味で特にこの点について運動はいたしておりません。

◎ 1 番（神田守隆君） 市長さんのお考えはよくわかりました。

むしろ、政策的なものであるからこそ大いに働きかける必要があると、私どもにしてみれば思うわけです。特に県は工業用水に対しては膨大な資金を投じているわけです。そういう中で高料金対策に対してどんどん減らしていくというのは工業用水問題——これは県政にかかわる問題ですが、大変に今の県政のあり方のいびつな姿が出ているわけです。工業用水偏重のために一般の水道が非常に低い補助金になってしまっているという、こういう問題があるわけで、これはやはり政策的な配慮ということで市町村が大きく声を上げていかなければならぬのじゃなかろうかと、こういうふうに思うんですが、市長さんはそういうお考えは全くないということでもありますから、ないということではわかりましたから次に移ります。

水道料金体系の問題について、負担の公平ということなんですが、負担の公平というのは何をもって公平というんですか。すると、市長さんは館山市と県営水道——県ということが大好きですから、県との比較でみると、県営水道に比べて大口消費者は市営水道の場合には安くなっている、そして一般家庭では県の方が安くなっているわけです。それが公平だというのはどういう物差しで言うんですか。いろんな考え方があると思うんです。市長さんの目からみれば県の方が不公平な料金体系というふうになるんですか。

◎ 水道課長（石井敏夫君） 水道料金の料金体系にかかわります御質問でございまして、水道料金につきましては、受益の程度に応じてこれを負担するというようなのが原則であるわけでございます。したがってまして受益

の程度というのはきのうもお答えがあったわけですが、何ではかるかといいますと、量水器によってはかれる、そういうようなことと。

さらに、受益の程度は必ず水を余計使うことが受益の程度が高いか低いかということではなくて、水道の場合よくサービスの提供だ、水を売った料金ではないということがいわれておるわけですが、このようなことから例えば基本料金で回収しようとする、いわゆる準備料金的な、水を使っても使わなくてもかかる料金、こういうものの負担はどうあるべきか。

さらに、水の使用に対して、使う料金としてはどうか。本来であると水の使用量に対する料金というのは原則的には均一であるべきだというふうに私は考えております。といいますのは、東京電力の1kw当たりの料金というのは同じ出し方で出ております。しかしながら水道料金の場合には先ほどちょっと出ましたけれども、福祉の面、そういった面もございますし、いわゆる一般家庭をできるだけ安くして大口の方に負担してもらうというようなことで逓増制の傾斜型の料金を使っているわけですが。

そういうようなことで、料金体系が県と比較して——若干触れてみますと、県の場合には料金の体系が今回館山市で行おうとしております、用途別から口径別にということでございますが、県はすでに口径別で今まで進んできております。口径別に進んできたということは基本料金においても大きな口径の方がたくさん負担しておる。それから従量制についても県もやはり逓増制をとっております。

県の改定の状況を見てみますと、昨年(昭和47年)の12月ですか、改定いたしましたわけですが、平均改定率が46.9%でございます。基本料金について見ますと、現行と新料金ということで申し上げますが、13㍓では39.1%引き上げられています。20㍓では39.42とだんだん上がりまして、150㍓は88%ということで、一般家庭用の13㍓から上にいくに従いまして高くなる、引き上げは一般家庭を押さえたということでもございません。

それから、従量料金について見ますと、1㍓から10㍓までの方の引き上げ率が50%、11から20が50%、21から40が50、41から100が52.9、101から500が52.4、501以上が40とい

うようなことで41から100ℓにつきまして52.9という一番引き上げ率を上げまして大きな方を若干落としてきている。これは東京都あたりでもそのようでございます。

そのようなことで、県としますと、料金体系そのものが従前から合理的といえますか、そのような体系になっておりましたので、引き上げてもそう現行と引き上げとの差が出てこないわけでございますが、館山市の場合で申し上げますと、現行でありますと基本料金は13ℓ方も100ℓの方も同じ300円ということであるわけでございますが、それを今回は説明資料の中にございますが、13ℓでは25%の引き上げになります。75ℓになりますと、いままでの8.5倍になります。

それから従量料金について申し上げますと、1ℓから8ℓの方が9.1%引き上げになります。500ℓ以上になりますと23.8%の——これは単に料金の単価の率を申しておりますが、そのように上の——水量をたくさん使う方に負担していただいたというようなことで、市長から答弁ございましたようにここで急激な負担増というものを大口だけにはかけられないというようなことで、やはり改定の場合の負担は一般家庭の方にも負担していただくというのがよろしかろうということをお願いしたわけでございます。

◎1番（神田守隆君） 今の話は話としてよくわかりました。

ですから、問題は従来の料金体系に問題があったわけで、いわば、市長は12月議会で、わが市は節水型で料金を逦増制をとっているというふうに言いましたけれども、実際県がやっているのはもっと厳しい料金体系——非常に厳しいカーブでの逦増制をとっているわけです。ですから、今回若干逦増制のカーブをきつくしたという点は認めますよ、しかし、それは県との比較でみればまだまだ全然逦増制のカーブはゆるやかなんです、ということなんです。

じゃあ、どういう物差しで考えるのか。確かに一遍に急激に変えるということも問題もあるでしょう。しかし、料金体系の考え方が、従来の料金体系がどうだったのかという考えをはっきりしなければいけない。

私は、去年——大変水で苦労しました。だから——これは水道課長さん答弁要りませんから、水道課長さんの方から話を聞くと計算の、売る立場

になるから、節水ということは水を売らないということなんです。そのためには500ℓ以上の人は350円取りなさいというのが県でしょう、1ℓ当たり。350円というと、海の水を島なんかでやるんです。400円を割るというんですよ、今の技術では。そうなりますと、自衛隊が月々1万ℓっぐらい使うわけでしょう。海から水を汲めば400円を割るというんで、市営水道は350円だということになれば検討の対象になりますよ。だけど260円というんじゃそれは簡単に検討はしてくれない。

具体的に、節水を促すというには、それだけの高い料金——特に500ℓ以上というのは41件に過ぎないんですよ、使っている人たちというのは。こういう人たちには強力に節水を促すんだ、そういう決意をやはり料金体系の中に——節水型の料金体系だという、今その中で500ℓ以上というところに的を絞りながら、これが成功すれば100ℓ以上のところまで含めて考えていかなければいけないでしょうけれども、当面500ℓ以上の方にこうした料金体系の中で節水を促すんだ、こういうようなことが大変必要なんじゃなからうか。

こういう点から、料金の体系についてももう少し手直しする必要があるんじゃないかと思うんですが、こうした手直しについてはいかがお考えですか。

◎市長（半澤良一君） 十分、御理解をなさっていることだろうと思うんですが、従来の経緯、あるいは県水だけで比較するんじゃなくて、ほかに水道企業体等があるわけですので、そういう水道企業体の料金体系等も勘案して決めたわけですので、手直しをするつもりはございません。

◎1番（神田守隆君） 決めるのはこちらなんですから……。

市長さん本当に考えてほしんです。県水との比較で、と言うけれども、県は水が足りないということで館山市の市営水道みたいな大騒ぎは最近ないでしょう。それだけ館山の方が深刻なんです。水の節水問題については県が350円取っているんならもっと高くやったって、そうやって節水を促したっていいんだという、そういう論理だってあるわけです。そういう点から見て、260円というような水準で500ℓ以上をやっているというのは考え直してもらいたい。

市長さん、こうした料金体系の問題について市長さんの方のお考えはないようですけれども、議会の方で料金体系を一部手直しするというようなことで、修正をするということについてはいかがですか。そういうことであれば、それはそれとして受けるということでもいいですか。

◎市長（半澤良一君） それは議会でお決めいただくことでございます。

◎1番（神田守隆君） そういうことはなるべくしたくないから、市長の方から出してもらいたいと思うから言うんですけれども、そう言うんならしょうがないですね。

次に、第2点の、市営住宅の障害者減免制度については、検討することですから、ぜひ検討をしていただきたい。それで終わります。

次に、第3点の、環境生活課の問題であります、中水道の研究、こうした問題、あるいは戸別下水道の研究、それぞれ大変有効な方法だということで、思い切ってやるようでありますから、ぜひそれに期待いたしたいと思えます。

昨日の質疑の中で出された無届け浄化槽の問題についてちょっとお伺いいたしますが、881基というような大変大きな数が無届けのままあるわけで、この管理を図るということは大変重要な問題だと思います。特に河川の汚染防止の問題から大変重要だ、こういう市長さんの御指摘もあるわけですが、こうした881基もの無届け浄化槽の適正な管理指導をしなければならぬということでは、私は——環境保全公社は昨年いろいろごたごたがありましたね。公共施設の浄化槽の仕事をとり上げたということがあるわけですが、こうした大変多くの数の無届け浄化槽があるという現状を見た場合に、こうした環境保全公社の業務内容としても、こうした拡張を図って、浄化槽の分野の問題を改めて検討しなければならぬじゃないかと思いますが、いかがですか。

◎民生部長（鈴木力君） 昨年4月から環境保全公社におきましては、市の施設の浄化槽につきましての清掃、点検業務を民間委託ということでやめたわけでございます。あくまでも環境保全公社は許可業者でございますので、し尿浄化槽の清掃点検については、資格そのものは持っておるわけですが、昨年4月からの業務については一応実施されております。

◎1番（神田守隆君） 急に出た問題ですから、どうですか市長さん、検討いただけますか、こうした業務の問題、拡張の問題について。

◎市長（半澤良一君） 881の無届けということは、建築するときに届け出をしなかったということでございまして、実態を聞いてみますと、くみ取りということで建築確認を受けながら現実には浄化槽を設置したというような例が多いようでございますが、これが全部清掃していないということではなくて、保健所へは届け出が出ていないけれども、市で調査したところこういうものがあるということで、この点についてはそれぞれ業者から清掃の届け出は来ているわけでございます。この881基全部が無届けで清掃していないということではございませんので、ほとんど全部がこちらでつかんで確認をして、清掃しないところに対しては清掃するように指導しているわけでございますので、この問題と直接環境保全公社との清掃との関連といえますか、結びつけることは無理だというふうに考えております。

◎1番（神田守隆君） 無理だという意味がわからないんですが、そうすると今の業者の体系の中ですでにやっている方もあるわけでしょう、881の中で。しかし、その中で全然点検や清掃をやっていない人もあるわけで、それがどのくらいあって、そして現在の許可業者の枠の中で十分消化できる、こういうような判断を持っている、こういう理解をするということですか。

◎市長（半澤良一君） そのとおりでございます。

◎1番（神田守隆君） 先ほどの環境浄化対策の問題として、中水道のお話をいたしました。市長さんは戸別下水道の中水道というようなイメージで御答弁がありましたが、県で行っている、企画が進めております中水道はもっと大口の消費者なんです。内容を見ますと、デパートだとか、病院あるいは学校——館山市で500以上の大口使用者というのを見ますと41件ということでもあります。自衛隊もそうでありますけれども、学校が多いですね。安房高だとか、高校を初めとしまして小学校や中学校、それからデパート、こういうようなところ——そういう大口の消費者のところ県がやっているプラントとして大変大きな成績を上げている。環境浄化の問題と節水の面で大変大きな効果を上げているということでありま

すから、先ほど節水の問題で500以上の問題ということで、料金の問題言ったわけですが、そういう料金の問題と節水を促すということと同時に、具体的に節水の方策、こういう具体的なプラントが、500以上の大口需要者向けの具体的なプラントを県が推薦しているわけですから、ですから時間がかかるのではないかなというふうなお話ですが、早速検討してみたらどうですか。

◎市長（半澤良一君） 私も、家庭における中水道ばかり考えているわけではございませんで、公共施設についての中水道も考えております。前から雨水の利用を含めて中水道は研究をさせております。

◎1番（神田守隆君） さっきの答弁では、これが時間がかかるのではないかな——時間がといってもいろいろな見方で、1年でも時間がかかるし、1カ月でも時間がかかるという言い方もありますから、できるだけ早い時期にこの問題も早速県からも資料を取り寄せたり、いろいろな研究をしてぜひお願いしたいと思います。

次に、4番目のセミコンダクター社との公害防止協定についてであります。これについては住民立ち入りということについては、市が同行して立ち入りをすることの権利が明確にうたわれているということで、ひと安心はその点ではするんです。

さらに、今後の、公害防止協定そのものはもう結ばれたということでもありますから、その本文についての公表については、公表は構わないわけですね。

◎民生部長（鈴木 力君） 公害防止協定書の公開につきましてのお尋ねでございますが、公開の必要があるというように市当局が判断いたしました場合には、公開いたしますということでございます。

◎1番（神田守隆君） それは違うんですよ。

公害防止協定というのは、皆さんにお約束しますといままで言っているんですから。ただ、いつ発表するかという問題なんで、市でそれを必要があるかないか判断するとか、判断しないとかという問題じゃないんですよ。だからいつやってくれますかと聞いているんです。

◎市長公室長（斎藤武男君） 当初、関係をしましたものでございますから、答弁を申し上げたいと思いますが、先ほど市長の答弁のように1月2

4日に本文を協定してございます。県の環境部ともいろいろと協議をいたしまして、本文関係については、市と会社と協定を結んでおることでございますけれども、一般に公表をしようとする場合には、当然そういうような形で出して差し支えない。

ただ、細目関係でございますが、細目関係については現在煮詰めておりまして、今月中には提出する予定になっております。

◎1番（神田守隆君）　あまり時間がないようですから、最後の問題に移らしていただきますが、市長さん、核兵器の廃絶という問題については全く異論のないところだというようなお話でありました。しかし、同時に非核、平和宣言については現在考えていないということであります。

現在、県内調べてみますと、習志野、流山、四街道、鎌ヶ谷、銚子、市川、市原、我孫子、浦安、その9市が核兵器廃絶の非核の平和宣言というものをやっておりますし、現在千葉市、あるいは船橋市等では請願が論議をされているようであります。ですから、3月議会を経ましてまたふえるところもあるんじゃないかならうか、こんなふうに思うわけであります。これはやはり今そうした平和の世論というものの、核兵器を廃絶しなければならぬという世論が大変大事だ、そのことがよく住民の大きく理解するところに広がってきているそのあかしなんじゃないかならうかと思うわけであります。

従来、非核宣言について、こうした平和の問題は国の専管事項だから、自治体が口出しすべきじゃないんだというような発想なり考え方がもしあるとすれば、それは大変な間違いで、やっぱり住民の命と暮らしを守る、これは自治体としての基本的な使命だ、こういうふうに考えるわけで、こうした住民の命と暮らしを守るという立場に立った場合、人類の絶滅というそうした脅威さえある、こうした核軍拡の競争が進められているこうした中で、自治体の立場から核兵器の廃絶やあるいは恒久平和の確立ということについて自治体が発言をすること、そして自治体の権限でできること、こういう意味での行動をするということが当然のことだと思うんです。

市長さんは、当面考えていないといったわけですが、これはそうした自治体の本来の持っている使命からいった場合にやはり考えていただきたいと思うんですが、いかがですか。

◎市長（半澤良一君）　先ほど申し上げましたように、世界の平和と安全

というのは国民だれもが等しく願っていることであり、私もそう思っておりますけれども、どうも平和問題というのは大変複雑な要素がありまして、特に平和運動ということについては、例えば原水爆禁止問題にしましても、社会党系の団体と共産党系で非常に分裂をして統一行動がとれていないというようなことを新聞紙上等で見ているわけでございます。どうも平和問題というのはイデオロギーの問題を、あるいは越えていろいろ各種団体との間の紛争に、純粹に考えるんじゃないか、そうした団体の平和運動に巻き込まれるおそれがあるんじゃないか、そういう危険のあることはやはり自治体としては望ましくないということを私はいつも懸念しているわけでございます。

そういう意味で積極的になれないというわけで、御趣旨はわかります。

◎1番（神田守隆君） 非常に市長さん、趣旨はわかるんですが、県内9市がやっているわけです。そのことによってやっかいな政治問題になったとか、そういう問題が起きたという実情があるのかないのか、よく調べてください。そういったものは一切ありませんから、私が知っている限りでは。

次に、教育長にお尋ねいたしますが、私が聞いていることは、戦争体験文集をつくってはどうかということなんです。この点についての答弁がないわけで、それを学校で使うか使わないか——ないのに使うわけにいかないでしょう。教材として選ぶか選ばないか校長の権限だ、それはそのとおりですよ。だけれども、こういうものがあります、市民がこういう戦争の体験を踏まえているんです、だから平和が大事なんだという、そういう文集をつくって、それがあれば、これを学校教育で適当か適当でないかという論議にのるでしょう。でもそれをつくらなければ全然話にもならないわけだから、その辺どうですかと聞いているんです。

◎教育長（福原 修君） 失礼いたしました。

私は、こういうような戦争体験文集を、私の方の、上からの指示でつくるということは、ちょっとまだまだそこまでいってないんじゃないかと思えます。こういうものは下から盛り上がって、市民が、そういう空気ができたときに、初めてこういう立派なものがつくられると思っておりますので、現在はそういうつくるという計画はございません。以上です。

◎副議長（渡辺昭夫君） 以上で1番議員君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午前11時34分

◎副議長（渡辺昭夫君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、3月11日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算案の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問